17 □常磐津岡太夫（享保十七―寛政八）

明和八年十一月中村座に始めて文字太夫控に出で安永三年四月森田座に初代兼太夫のワキを語る（その位置は左右太夫の次席）その後は左右太夫と共に兼太夫に従へ出勤、ナガレを語る。天明三年正月中村座以後その名なし。寛政八年二月三日死、年六十五才、牛込仙念寺葬

常松院縁尊調言居士 → 行事となる

18 □二代目常磐津仲太夫　始め富士岡錦太夫（和字年表36頁上欄参照）

富士岡若太夫の弟子　若太夫に従い明和七年十一月森田座にそのワキを語るも、後初代兼太夫の弟子となり仲太夫と改名し安永六年十一月中村座に始めて兼太夫のナガレを語る。その後引きつづき兼太夫に従いて出勤、天明元年十一月森田座に兼太夫のワキに出る。天明三年後その名なし（位置は岡太夫の次席）

○常 仙台屋のち勾当宮古路豹太夫の弟子となり、それより若太夫の弟子となり錦太夫と云いしが後仲太夫と改名

19 □常磐津太美太夫　又、名美太夫、初名初世喜代太夫

安永三年四月森田座に太美太夫と改め（常）三番目に出兼太夫のナガレを勤む、その後絶えて出勤なかりしが天明元年二月市村座に兼太夫のワキを勤め、同三年九月中村座にて兼太夫と共に始めて太夫場

天明四年中村座出勤後番附に無し

20 □豊名賀喜久太夫

安永四年九月市村座に造酒太夫のナガレ、安永八年富士太夫二代目造酒太夫となるやワキ語りとなれり

NO.
DATE

21

二代目 豊名賀造酒太夫

（天文三―寛政六）

始め豊名賀富士太夫 後常磐津造酒太夫

初代造酒太夫の弟子富士太夫と云う。安永四年九月市村座に師太夫場を語るやワキとして出勤。安永八年十一月森田座に二代目造酒太夫となり太夫場となる。師歿後天明三年兼太夫に招かれて常磐津に入り常磐津富士太夫と称せり。翌四年又二代目常磐津造酒太夫となり同年正月市村座に兼太夫のワキを勤め爾後芝居毎に出勤す。寛政六年正月より原崎座出勤を最後に同年二月十八日五十七才をもって歿す。四谷に住せしより四谷の造酒太夫と云へり。

22

初代 常磐津安和太夫

始め豊名賀津摩太夫

始め新内語りにて兼太夫と云う。豊名賀造酒太夫に従え安永九年正月市村座興行にはナガレを語りしが、天明三年末に常磐津に入り安和太夫と改名し翌三年正月中村座に出勤、同年十一月森田座にて芳太夫と共に「夜東雪雛入」のクドキを語り、翌四年正月中村座出勤限り富本に入る。後○○○○となる。

23

常磐津芳太夫（寛保三―文政八）

始め武部太夫、後左文

始め武部太夫と称し明和五年十一月森田座に文字の都のナガレを勤めしが後芳太夫と改名し天明元年七月森田座に始めて太夫場となる。其の後芝居出勤なく寛政四年家元行事となり寛政十一年十月森田座にクドキとして出勤あり。文化の初年左文と改名し又政八年六月十一日死す。享年八十七。芝金杉正伝寺に葬る。

法名 円隆院芳信日数

辞世 有漏路より無漏路へ我は帰るなり 妙なる法の花の浄土へ

24 口豊名賀津根太夫
安永五年正月森田座に造酒太夫のナカレを勤め以来数度出演

25 口豊名賀佐野太夫
安永九年八月森田座に二代目造酒太夫のナカレを勤め天明三年
二月市村座ワキ

26 口常磐津須磨太夫
天明三年九月中村座に始めて名美太夫のナカレを語る 其の後寛政
二年六月市村座に二代目兼太夫のワキ

27 口常磐津須賀太夫（宝暦八(?)）
本名源蔵十七才にて兼太夫の内弟子となる 天明元年七月森田座に
始めて控に出て天明三年十二月芳太夫のナカレを語る、天明四年十月
森田座に芳太夫のワキを語る。

28 口常磐津八十太夫
安永八年十月中村座に始めて控に出で同九年二月同座に兼太夫の
三番目に出勤 天明三年頃までナカレに出勤す

NO.
DATE

29

回 二代目常磐津兼太夫（一七五一～一八〇二）

初代兼太夫の弟、初舞台は天明四年正月中村座北後兼太夫ナガレに引続き出演、天明七年四月（八月の中村座にタテ語りを勤む、兄兼太夫二代目文字太夫となるや天明七年十一月森田座に兼太夫の名を襲ぐワキとなる。（二代目造酒太夫出演の場合はナガレを勤め一新まく案するに当時尚その後造酒太夫には及ばざりしものならん）造酒太夫歿後はワキとなる。而してタテ語りとしてもしば〳〵出演せるが寛政十一年兄二代目文字太夫病ひ危篤となるやその跡目後見のことより不和を生じ、二月十七日破門せられ同年四月分れて吾妻國太夫と改称、中村座河原崎座に数度出演、享和二年六月十七日横死す 行年四十八才 大橋に居住せしより大橋の兼太夫と云う

始め大和太夫、後吾妻國太夫

30

回 二代目常磐津長門太夫（安永六～文化五）一時二代目左名太夫となる

天明七年中村座に大和太夫のナガレとして出演、文字菊（二代目家元の妻）の弟子にて後、初代里長の弟子ともなる。其の後大和太夫二代目兼太夫となり更に吾妻國太夫となりて一派を起すや走りてそのナガレを語りしが寛政十二年十一月中村座に二代目左名太夫を襲ぎて綱太夫のワキ語りとなり常盤翠年九月中村座に再び長門太夫ともどり伊勢太夫のワキとなり芝居に出勤せしが文化五年三月五日死歿、生國は八王子なり

31

回 常磐津久太夫

天明七年四月中村座に始めて大和太夫のナガレとして出演 二代目文字太夫の弟子なり